

# 研修視察の意見・感想

氏名	定方 英一
委員会	文教福祉委員会
視察年月日	平成 25 年 7 月 1 日（月）～3 日（水）
視察先	鹿児島県・熊本県・福岡市

## 鹿児島市 \*市立病院について

### 1、はじめに

鹿児島市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央に位置し、人口は 60 万を超え南九州の中核都市で在ります。

2011 年には、九州新幹線全線開通により、博多まで 1 時間 20 分と飛躍的に短縮、観光面でも 40 年ぶりに 300 万人を超える大きな効果をあげています。鹿児島市の病院事業は、明治 26 年にさかのぼり、紆余曲折を経て昭和 20 年、鹿児島市立病院と改称、昭和 23 年現在地に新築移転し現在に至っております。また平成 27 年度の新築移転に向けた取り組みを進めており、24 時間安心して生活できる医療機能を備え、高度で質の高い医療を提供し、市民の生命と健康を守る病院を目指しています。



新市立病院の完成予想図



駐車場も 654 台

### 2、病院概要

市民の健康保持の為、良質な医療サービスを提供する事を目的として、医師をはじめとする医療従事者の技術向上、各種の高度医療機器の拡充整備及び病棟などの施設の整備に努めてきた。

平成 3 年には救命救急センター棟を増築し、鹿児島県救急医療の中心として第三次救急医療体制の整備を進めてきた。

平成 19 年には、産科と新生児科の機能を集中させ、リスクの高い妊婦に対する医療や高度な新生児医療等、母体及び胎児、新生児に一貫し

た 24 時間体制で周産期医療を行う、総合周産期母子医療センターを開  
設しました。

平成 20 年には、発症直後超急性期の治療も行える脳卒中センターを開  
設するなど、専門的で高度な医療の提供及び救急医療体制の確立に努  
めています。

臨床研修指定病院、看護学校の実習指定病院、診療科目は 20 科、687  
床を有し、県下の中核的総合病院として、市民はもとより広く県民か  
ら大きな期待と信頼を寄せられています。



新生児室



周産期ドクターヘリマップ

### 3、まとめ

まず最初に驚いたことは、病院長  
みずから先頭に立ち、懇切丁寧に  
説明を受けた事です。

2つ目は説明員の多さです。  
大抵は二・三人ですが10人以上  
の対応は初めてです。

三つ目は、新生児室・救命救急・  
脳卒中の専門センター（現場）に

案内され、担当の医師から生々しい説明を受けたことです。

その中で超低体重児（500 g 1,000 g）の生存率 90%以上には驚きです。  
そして何と黒字経営、市の一般会計に毎年3億以上を繰り入れている、  
どれもこれも驚きの連続でした。

昭和 51 年、五つ子誕生（990 g ~ 1,800 g）この病院には今日の姿に成  
る要素が一杯だったのかもしれませんが、しかし、病院スタッフの熱意  
と弛まない向上心がひしひしと伝わってきました。

院長自ら伊勢崎市民病院のことも事前に調査しており、伊勢崎市さん  
も頑張っているようですねとお誉めの言葉をもらいました。

新病院が完成になったら、また、是非伺いたいです。

これからも、頑張ってください。



院長先頭に、病院スタッフ

# 熊本市 \*不登校児童生徒対策事業について

## 1、はじめに

昨年4月政令指定都市になった熊本市（人口73万）清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境に恵まれ、熊本城をはじめとする、すぐれた歴史遺産や豊かな伝統文化を受け継ぐ、九州中央の拠点都市です。

政令指定都市に移行後、拡充された権限・財源を最大限に活かし、自らの判断と責任による街づくりを進めています。



熊本県のキャラクター  
「くまモン」をバックに

## 2、事業

不登校児童生徒に対し、ありとあらゆる点で対応していることです。

- 1) 総合支援課における学校支援
- 2) スクールカウンセラー配置事業
- 3) 心のサポート相談員配置事業
- 4) 適応指導教室
- 5) スクール ソーシャルワーカー配置事業
- 6) ユア・フレンド事業等であります。

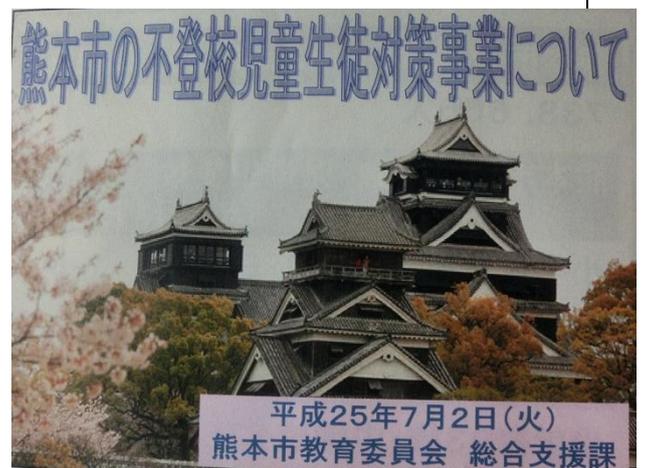
中でもユア・フレンド事業ですが、熊本市教育委員会が2002年（平成14年）度から熊本大学教育学部と連携して開始されました。

年々増加する不登校児童・生徒に対する対策として、保護者などから要請を受けた市教育委員会が、熊本大学教育学部に派遣依頼を行い、大学側でユア・フレンドを推薦派遣し、児童・生徒の話し相手、相談相手になる活動です。

派遣は、週1日、1日2時間程度ですが、ひとりの子どもに、ひとりのユア・フレンドが付くこととなります。

さらに、ユア・フレンドに対する研修・指導・助言を大学教育の一環として熊本大学教育学部がバックアップしています。

現在では、百五十名近い学生が登録し、成果も見られることから、不登校児童・生徒対策の新しい取り組みとして、全国の保護者や市町村教育委員会などから注目されています。また、平成19年度入学生から



活動を授業として単位認定できるようになりました。

## ユア・フレンドの派遣 家庭、市立小中学校、フレンドリーへ

	平成23年度		平成24年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校
登録学生数	159人 (男子33人)		175人 (男子27人)	
派遣学校数	32校	32校	28校	31校
派遣学生数	143人		154人	
派遣先児童 生徒数	54人	121人	50人	105人
総派遣回数	2,157回		2,218回	

### ユア・フレンド事業の成果(平成24年度)

- ◆学校での複数派遣で、改善傾向がみられるようになった。 **44人**
- ◆家から外出できるようになり表情が明るくなった。 **28人**
- ◆学校に登校できたり、教室に入れるようになったりした。 **34人**
- ◆学校に復帰できた。 **26人**
- ◆ほとんど変化がなかった。 **23人**

### 3、まとめ

熊本市の教育に対する取り組み最高です。市費で35人学級を実施したり、大学と連携のユア・フレンド事業。大都市で在るのに、きめ細やかな事業を行っていることに驚きです。

都市が大きいから大雑把、小さいから細やかでは無いです、やはり先頭に立って指揮する指導者の存在と知恵を出す組織でしょう。

鹿児島同様説明員10人、皆で取り組む熱い心が伝わってきました。

何時も視察に行っていて感じるのですが、先進地と言われるところは、そこにいる職員が熱い心が有ることで、それは、話し方で直ぐ分かります、やはり情熱を以って取り組む大事なことです。

政令指定都市に成り教職員の人事権も市に移譲に成りました。

そのことにより多様な教育課題に対応出来る、人間性豊かな教員の採用・育成が可能になりました。

人間的な魅力にあふれ、夢と情熱をもって「熊本の人づくり」をリードする教職員と未来ある子どもの教育に大いに期待したいです。



# 福岡市 \*ゆうゆうセンター(発達障がい者支援センター)について

## 1、はじめに

福岡市は中国・朝鮮半島に近い九州の中核都市。古くから大陸文化の受け入れ窓口としての機能をはたす。天神・博多駅地区は九州全体の行政・商業・業務・交通の中核です。今後も、アジアの交流拠点都市として、観光客誘致や企業集積に取り組んでいく活気のある大都市（人口146万）です。

## 2、事業

ゆうゆうセンターとは、発達障害者支援法（H17年）に基づき、福岡市により設置された、発達障がい全般に関する、地域の中核支援機関です。ゆうゆうのネーミングは「あなた（YOU）と社会を優しく結ぶ、そして、みんながゆうゆうと過ごせるようにとの願いを込められて名付けられました」。事業の内容は

- 個人に向けた支援事業
  - 相談支援 年間 3,285 件
  - 発達支援 284 件
  - 就労支援 72 件
- 普及・啓発・人材育成のための事業
  - 主催 35 件
  - 共催 9 件
  - 講師派遣 83 件
  - 計 151 件 参加者 840 人
- 支援体制整備（連携構築）のための事業等であります。



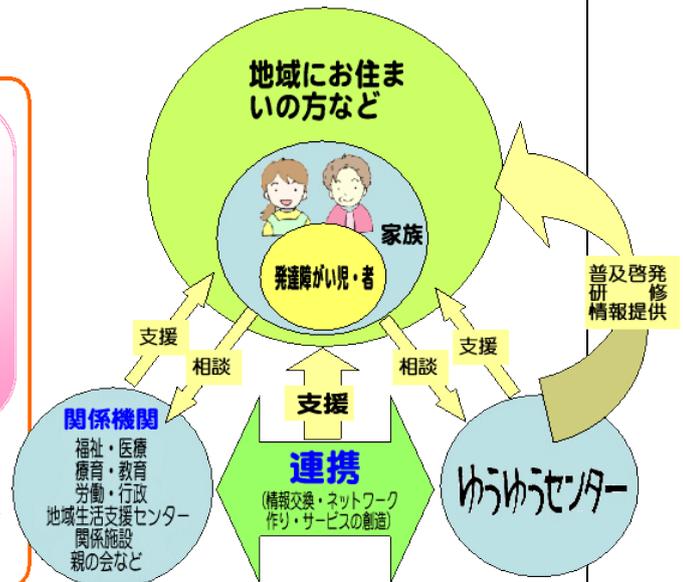
今回は、所長一人での説明でした



## こんなときは、ご相談ください

- ・発達障がいかもしれない。診断はどうしたらいいか
- ・発達障がいと診断された。今後どうするといいか
- ・発達障がいの特徴を知りたい
- ・家庭や学校で、どう対応したらいいかわからない
- ・就労が長続きするには、どうしたらいいのか
- ・職場での対人関係のとり方がよくわからない
- ・卒後の進路をどうするか悩んでいる
- ・福祉や就労支援、余暇活動等の情報を知りたい

○発達障がいのある方やそのご家族、関係機関の支援者の方などの総合的な相談窓口として、発達、教育、就労、余暇活動などに関する様々なご相談に応じます。



### 3、まとめ

福岡市の人口146万人、その中で「ゆうゆうセンター」の運営、また、予約から来所まで2カ月もかかる相談予約待ち。

緊急性が有る無しに関わらず、気が遠くならないですかね？

発達障がいを抱え悩んでいる人、家族にとって大変なことだと思います。鹿児島・熊本と大勢の説明員に感激してきたところ、今回は所長たった一人の対応。今までとギャップの大きさに戸惑いです。

伊勢崎市に於いても子ども発達支援センターが出来ているので、比べるわけではないが、伊勢崎市の取り組みの方が良いように見えます。国の法律が出来たから地方も、と言う時代でなく地方が率先して事業を推進する、そのことが一番大事だと感じました。

今回の3日間充実した視察研修で在りました。



